

個別事業(取組)評価				
事業No.	1	施策の柱への位置付け	柱① 学校・学級改革	
事業名称	国語学力定着事業		担当課	小中学校課
			当初予算額(千円)	11,839
			補正後予算額(千円)	-
			決算額(千円)	9,675

		当初計画	年度末点検・評価
①	現状(課題)とその要因	<p>【現状】</p> <p>平成19～21年度の全国学力・学習状況調査の国語の結果により、小中学校には以下のような課題が、3年間改善されずに残っていることが明らかになった。</p> <ul style="list-style-type: none"> 目的や意図に応じて、話したり、聞いたり、書いたり、読んだりすること 漢字や語句を文脈に応じて使うこと 特に中学校において、小学校で学習した漢字が未定着 	<p>ア 正確に把握していたか (Yes <input checked="" type="checkbox"/> No <input type="checkbox"/>)</p> <p>平成22年度4月の全国学力・学習状況調査の結果及び過去の傾向から、本県の児童・生徒の国語科における学力の状況を把握した。</p> <p>【平成22年度全国学力・学習状況調査の結果】</p> <p>※全国平均との差</p> <p>小学校国語A-0.5p 小学校国語B+1.1p 中学校国語A-2.5p 中学校国語B-4.3p</p>
		<p>【要因】</p> <p>① 学習した漢字や語句を復習することや、生活の中で使おうとする機会が少ない。</p> <p>② 目的や意図に応じて、話したり、聞いたり、書いたり、読んだりする授業を意識的に学習させる授業の実施率が少ない。</p>	<p>イ 十分に特定していたか (Yes <input checked="" type="checkbox"/> No <input type="checkbox"/>)</p> <p>【平成22年度全国学力・学習状況調査の結果】</p> <p>① 国語設問別集計結果</p> <p>小学校での漢字や語句についての定着度は高いが、中学校で小学校の時に学習した漢字や語句を文脈に応じて使うことに課題が見られることから、学習したことを日常生活に活用できていないことが明らかとなった。</p> <p>② 質問紙調査結果</p> <p>目的や意図に応じて話したり、聞いたりする授業を意識的に学習させる授業の実施率が少ない。</p> <p>「よく行った」と回答した割合</p> <p>高知県 小学校18.6% 中学校 7.0% 全国 小学校21.9% 中学校16.4%</p>
②	目標(Outcome)	<p>① 平成23年度の全国学力・学習状況調査において、上記課題と同様の調査問題に対する正答率を現状より改善させる。</p> <p>② 平成23年度全国学力・学習状況調査における学校質問紙調査で、学校の取組に関する回答の肯定群を現状より増加させる。</p>	<p>ウ 達成可能で具体的な目標を設定していたか (Yes <input checked="" type="checkbox"/> No <input type="checkbox"/>)</p> <p>全国の状況と比較できる指標を設定した。</p>
		<p>【検証(比較)方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 平成23年度全国学力・学習状況調査結果 ◆ 国語学習シートの活用に関するアンケート(指導の改善・家庭学習の改善・学力の状況の改善に関する状況を把握) ◆ 重点支援校などへの訪問時に授業の指導方法等を確認 	<p>エ 目標は達成されたか (Yes <input type="checkbox"/> No <input type="checkbox"/>)</p> <p>※検証中(平成23年度全国学力・学習状況調査が未実施となる場合は、到達度把握調査結果や学校支援訪問等での確認において検証を行う。)</p> <p>【参考】</p> <p>平成22年度の全国学力・学習状況調査の結果では、小学校はほぼ全国水準となった。中学校は全国の平均正答率と2.5p～4.3p下回っているが、平成21年度に比べると差が縮まっている。</p> <p>【平成22年度の全国学力・学習状況調査の結果】※全国平均との差</p> <p>小学校国語A-0.5p 小学校国語B+1.1p 中学校国語A-2.5p 中学校国語B-4.3p</p>
③	実施内容(Input・Output)	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 国語学習シートの作成・配付・活用 ・「国語学習シート」を活用することで、小・中学生に国語の家庭学習の仕方を習得させ、家庭学習の習慣を身に付けさせる。 ・「国語学習シート」の活用を通して、授業と家庭学習を関連させ、各学校の国語の授業改善を進める。 ◆ 国語指導改善資料集の作成・配付・活用 ・「指導改善資料集」(授業イメージや教材例)の作成を通して、国語の授業改善に関するリーダー的な教員を育成する。 ・「指導改善資料集」を活用することで、各学校の国語の授業改善を進める。 	<p>オ 計画通り実施されたか (Yes <input checked="" type="checkbox"/> No <input type="checkbox"/>)</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 7月、10月初旬に「国語学習シート」を各校に配付した。(7月は漢字学習用) ◆ 【国語学習シートの活用に関するアンケート】(1月提出) ◇ 小学校 97.3%、中学校 98.3%が国語活用シートを活用していた。 ◇ 小学校 22.6%、中学校 16.5%に国語学習シートを活用していない学年がある。すべての学年で使用実績のある割合は、80%である。 ◆ 国語指導改善資料集の作成において、作成委員の教員と指導主事が連携して教材研究を行い、授業力の向上につながった。2月に「国語指導改善資料集」を各教員に配付した。
		<p>目標達成度 <input type="checkbox"/> 「No」を選択した項目 <input type="checkbox"/></p> <p>【総合評価】</p> <p>ほとんどの小中学校で国語学習シートが活用されており、活用を通して子どもたちの学習意欲の向上、教員の授業改善に向けた具体的な取組につながっている。</p>	<p>【今後の方向】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 国語学習シートのなかには、授業改善につなげる活用の仕方について浸透していないものもあるため、具体的な活用事例の提示、紹介を行い、各学校での活用を促進していく必要がある。 ◆ 国語科における課題の改善を進めるために、本事業の継続の必要性は非常に高い。
総合評価と今後の方向			